



管理ツール 操作マニュアル S01-16 外部アプリケーション設定

株式会社 NTTデータ NJK

- ・このソフトウェアの著作権は、株式会社 NTT データ NJK にあります。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製することは法律で禁止されています。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルは、本製品の使用許諾契約書のもとでのみ使用することができます。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・このソフトウェアの仕様およびマニュアルに記載されている事項は、将来予告なしに変更することがあります。
- ・このマニュアルで使用している画像には、開発中のものも含まれます。実際の製品と異なる場合がございますことをご了承ください。

DataNature および DataNature Smart は、株式会社 NTT データ NJK の登録商標です。
その他の商品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

CONTENTS

マニュアルの表記.....	S01-16_0
1.DataNature Smart 全体概要図.....	S01-16_1
2.基本操作.....	S01-16_2
2-1 ジョブの作成.....	S01-16_2

マニュアルの表記

◆ 呼称について

本マニュアルでは以下の呼称を使用しています。

DataNature Smart 管理ツール :DN 管理ツール
DataNature Smart クライアント :DN クライアント

◆ 画面に表示されるコマンド名などの文字

コマンド名やダイアログボックス名など、画面上の固有の文字は [] で囲んで表記します。なお、ユーザーによって異なるデータボタンは < > で囲んで表記します。

【例】

[編集]コマンド、[検索]ダイアログボックス
<大阪営業所>データボタン

◆ マニュアルで使用しているアイコン



“注意”を意味します。

知っておくべき重要な事柄や行なってはならない操作など、注意すべきことについて記載されています。



“ポイント”を意味します。

操作や内容のポイントとなる事柄について記載されています。



“参考”を意味します。

知っておくと便利な操作や内容などのノウハウについて記載されています。



“参照”を意味します。

操作や内容に関連するマニュアルの参照ページについて記載されています。

◆ マニュアルで使用している画像について

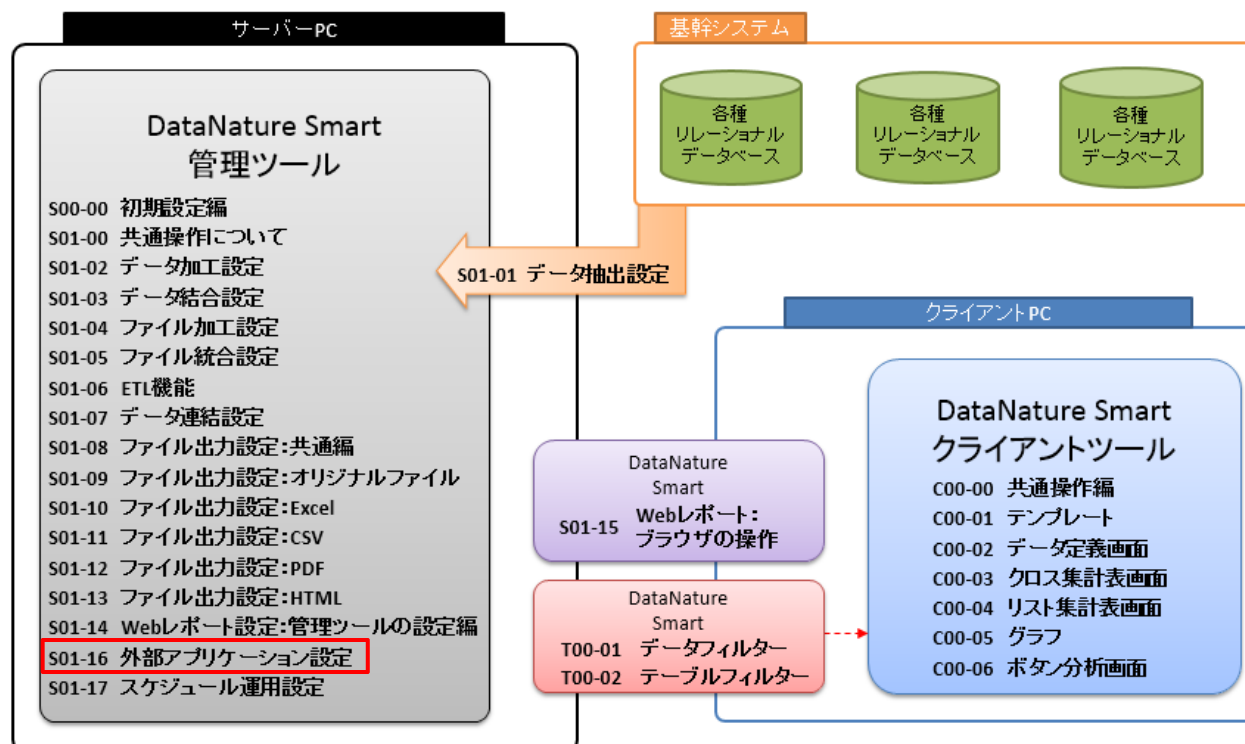
マニュアルで使用している画像には、開発中のものも含まれます。実際の製品と異なる場合がございますことをご了承ください。

◆ 機能について

導入された製品構成によって、利用できない機能や制限があります。

1. DataNature Smart 全体概要図

本マニュアルでは、S01-16 外部アプリケーション設定について記載しています。



- 外部のプログラムやバッチファイル等を DataNature Smart のスケジュールに登録できます。
- 外部アプリケーションのパラメーターも指定し実行が可能です。
- 外部アプリケーションが返すリターン・コードを登録し、次のアクションを設定可能。

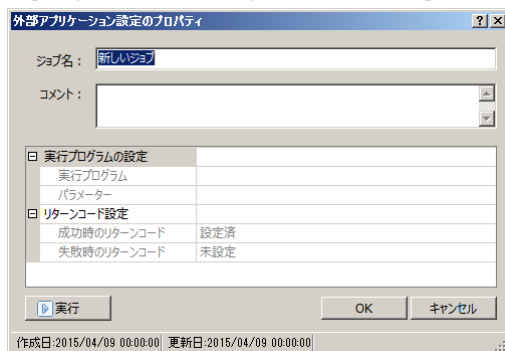
2. 基本操作

2-1 ジョブの作成

[外部アプリケーション設定]では、任意の実行形式ファイル(アプリケーション・プログラムやバッチファイルなど)を登録することができます。たとえば分析対象データを更新する前にバックアップ処理するバッチ・プログラムなどを DN 管理ツールのスケジュールに組み込んで利用することができます。

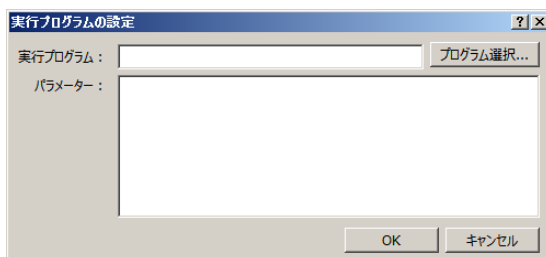
- 1  DN 管理ツールの[DataNature の管理]-[ジョブ設定]ノードをクリックし、メニューバー[ジョブ設定]-[ファイル操作系作成]-[外部アプリケーション設定]をクリックします。
([DataNature の管理]-[ジョブ設定]-[外部アプリケーション設定]ノード上のコンテキストメニュー[新しいジョブ])

▼[外部アプリケーション設定のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。



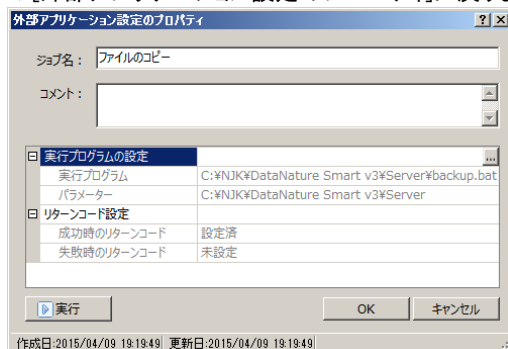
- 2 [ジョブ名:]テキストボックスに、ジョブ名を入力します。
- 3 [コメント:]テキストボックスに、外部アプリケーション設定についての説明などを任意に入力します。
- 4 [実行プログラムの設定]欄の[参照]ボタンをクリックします。

▼[実行プログラムの設定]ダイアログボックスが表示されます。



- 5 [実行プログラム:]に登録したい対象のアプリケーションプログラムやバッチファイルを、[プログラム選択]ボタンをクリックして指定します。
- 6 [パラメーター:]には、[実行プログラム:]に引き渡すパラメーター値を任意に入力します。
- 7 設定後、[OK]ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。

▼[外部アプリケーション設定のプロパティ]に戻ります。



- 8 続いて、[リターンコード設定]欄の[参照]ボタンをクリックします。

▼[リターンコード設定]ダイアログボックスが表示されます。

- 9 リターンコードの設定を、処理成功時と処理失敗時の二つに分けて行います。必要に応じて設定してください。



リターンコードは、処理の成功/失敗の判断基準となり、管理ツールのログビューアー（ジョブ-ジョブ詳細ログ）にも記録されます。

処理を実行した時に、「処理成功時のリターンコード」に登録された以外のコード（「処理失敗時のリターンコード」に登録したコードや登録されていないコード）が返却された場合は、全て失敗（エラー）とみなされます。

- 10 設定後、[OK]ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。

▼[成功時のリターンコード]、[失敗時のリターンコード]に「設定済」と表示されます。

- 11 設定が完了しましたので、[OK]ボタンをクリックし、ジョブを登録します。

▼[外部アプリケーションの設定のプロパティ]ダイアログボックスが閉じ、管理ツールの画面に戻ります。設定した内容がプロパティ表示領域に表示されます。